

お役立ち情報紙

Vol.23 2009 新春 財団法人豊田市国際交流協会(TIA)

新年でおめでたいところのはずですが、いわゆる“トヨタショック”で豊田市内にもその影響を受けている方々が外国籍市民を含め、少なからずいらっしやることだと思います。富める者たちのマネーゲームの果てに、日々なんとなく暮らしていた弱い立場の人々が職を失ったり、物価の高騰に悩まされたりしているとすれば、世界の金融システムはまさに人の欲望が生み出した“マネーモンスター”といえるかもしれません。今回のことでも我々の生活はいろいろなところで世界とつながっているのだと実感させられます。

本ニュースレターは国際理解教育分野における新しくユニークな試みなど、耳寄りの情報を学校や地域でワークショップを実践している方々にお届けしています。



1 第3回国際理解教育セミナー「バイオエタノール先進国、ブラジル」開催のお知らせ

最近落ち着いてきた原油と穀物の価格高騰ですが、その高騰とともに世界を騒がせたのは「バイオエタノール」でした。石油や石炭などと違い、トウモロコシやサトウキビなどの農作物から燃料を生産できるということで「再生可能な燃料」として注目を集めました。しかし、トウモロコシはとりわけ自国で十分な穀物生産ができない途上国の人々の“食糧”として重要な役割を担っており、トウモロコシをバイオエタノールの材料とする場合、国際的な穀物価格の高騰を引き起こし、多くの人々が苦しむ要因となりました。

一方、バイオエタノールは最近になって世界の注目を集めました。実はブラジルでは自国での豊富なサトウキビ生産を背景に1970年代からバイオエタノールの実用化に挑戦してきました。サトウキビでのバイオエタノール生産は他の作物を使うよりも効率がよく、またブラジルでは砂糖の搾りかすを燃料に再利用して作物の効率的な利用に取り組んでいるといいます。

今回はブラジル国営石油公社(ペトロプラス)とトヨタ自動車から講師を迎え、「バイオエタノール先進国」であるブラジルのその利用状況や歴史を学びます。また参加者同士でこれからのエネルギーや環境について考えます。

と き 2009年1月24日(土) 午後2時～4時30分
と ころ とよたグローバルスクエア(産業文化センター3F)

対 象 ブラジルや環境に興味のある方

講 師

・ニュートン 公博 園木(にゅーとん たかひろ そのき)

日伯エタノール株式会社取締役営業部長

(ペトロプラスより出向中)

園木氏の講演はポルトガル語でおこない、逐次日本語で通訳します。

・飯田 一三(いいだ かずみ)

トヨタ自動車株式会社米州営業部南米事業室事業グループ長

定 員 30人程度

参加費 無料

申込み 1月23日(金)までにTIAへ

電話(33-5931)かメール(tia@hm.aitai.ne.jp)で申込み



ニュートン・園木氏
(日伯エタノール提供)



